

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校

【音楽】

■児童の状況	・意欲的に活動する児童が多いが、コロナ禍で声を出す活動が制限されていたため、現在も声を出すことに消極的になっている児童も見られる。 ・器楽の活動を好む児童が多いが、技能面での個人差が大きい。 ・歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の全ての領域において、自分の思いや考え、意図をもって取り組んだり、友達と試行錯誤しながら音楽表現をつくり上げようとしたりする姿勢が十分身に付いていない児童も見られる。 ・教科書に書いてある情報（説明や図形楽譜、写真等を正しく理解し、表現する力（読み解く力）が十分ではない児童もいる。
■指導についての課題	・安心して自己表現ができるような認め合える雰囲気作りや、伸び伸びと表現できる音楽的環境作りが必要である。 ・器楽では、学年の実態に応じて全員が様々な楽器に取り組む機会を設け、基本的な技能を身に付けることが課題である。また、児童の実態に合った教材や指導方法を取り入れ、技能面での底上げを図る必要がある。 ・どのように表現したいかについて自分の思いや考えをもったり、伝え合ったりしながら音楽表現を高めたり深めたりする学習経験が必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	・リレー奏、リレー唱、即興的な表現などを通して、友達の前で表現することに慣れるようにする。 ・ペアやグループで活動する場を設定することで、思いや考えを伝え合ったり、友達の表現のよさや工夫を取り入れたりしながら、安心して自分を表現するとともに、歌唱や器楽の表現力を高め合うことができるようにする。（協働学習の導入） また、楽しみながら取り組める曲を適宜教材として取り入れ、できる喜びを味わわせ、自信をもたせられるようにする。 ・学習のゴールを設定し、そのためにどのような学習課程や技能が必要なのか、児童自らが思いや考えをもち、知識・技能を身に付け、問題を解決していく力を身に付けられるようにする。（問題解決型・探究型の学習） ・音楽科の学習内容と関連させながら、教科書に書いてある言葉や歌詞の意味、図形楽譜や写真が示す内容や手順を具体的にイメ

	ージして、音楽表現できる力を身に付けられるようにする。 ・小・中学校9年間の目標や指導内容を見通し、系統立てた指導を展開しながら、児童が知覚・感受したことを音楽や言葉で表現できるよう、音楽の言葉を身に付けられるようにする。（保幼小中連携）	
--	---	--